

平成28年度第3回福井市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成28年10月18日(火) 開会 15時00分 閉会 15時30分

2 場 所 福井市役所 第1委員会室

3 出席者 福井市長 東村 新一
教育委員長 玉木 誠
教育委員 佐藤 藤枝
教育委員 木村 敦子
教育委員 春木 伸一
教育委員(教育長) 内田 高義

事務局

<総務部>総務部長 総務部次長 総合政策課長 同副課長 同主任

<商工労働部>観光文化局長 文化振興課長 自然史博物館副館長 美術館長
郷土歴史博物館長

<教育委員会事務局>教育部長 少年対策参事官 教育次長 教育総務課長
同副課長 同主任 学校教育課長 保健給食課長 生涯学習室長
青少年課長 スポーツ課長 文化財保護課長 図書館統括館長

4 協議事項 (1) 福井市教育に関する大綱(案)について
(2) その他

5 議事の要旨

事務局

ただ今から、平成28年度第3回福井市総合教育会議を開催する。

— 福井市市民憲章唱和 —

東村市長

それでは協議に入る。

福井市教育に関する大綱(案)について、事務局から説明願う。

事務局

— 資料に基づき説明 —

(教育総務課長)

東村市長

ただ今の説明について、教育委員の皆さんからご意見、質問等があれば伺いたい。

佐藤委員

大変わかりやすい具体的な大綱となり、細かい点も取り入れてもらい感謝している。

1点、言葉の細かいチェックとなるが、大綱（案）の15ページ、方針7の4行目「家庭教育や青少年教育など多様な学習機会を提供し、学習の成果が地域に還元されるよう支援します」という文章について、読むと意味はわかるが、教育と学習には違いがあると思うので、「家庭教育や青少年教育に関する学習」とか「家庭教育や青少年教育を支援する学習」のように、教育を支援するための学習機会というような表現にした方がよいと思う。

事務局
(生涯学習室長)

ご意見のとおり「家庭教育や青少年教育を支援する」とし、文の最後にまた「支援」が出てくるため、全体として「家庭教育や青少年教育などを支援するための多様な学習機会を提供し、学習の成果が地域に還元されるよう努めます」というように修正したい。

東村市長

私からも1点確認したい。

6ページ 施策の方向性(4)⑤の「認定こども園への移行を推進」というのは、公立だけでなく私立の幼稚園、保育園についても認定こども園への移行を推進していくという考え方なのか。

事務局
(学校教育課長)

基本的には公立園を想定している。私立幼稚園については順次それぞれの私立幼稚園で移行していくということであり、それについて市から何か特別な支援をしていくという考えは今のところない。

東村市長

では、④の「子どもの社会性を育むため、公立幼稚園や認定こども園同士の集団遊びを通じた交流活動を推進」では、幼稚園は公立幼稚園のことで、認定こども園は公立も私立もというように読めるが、これについてはどうなのか。

事務局
(学校教育課長)

これも同じように、基本的には公立幼稚園と公立の認定こども園との交流ということを考えている。年に1回ある「わくわく交流デー」という、小学校入学前の体験入学については公立も私立も対象としているが、この話はあくまでも公立の幼稚園と公立の認定こども園同士の交流の機会と考えている。

東村市長

だとすると、「公立幼稚園」ではなく、「公立の幼稚園や認定こども園」とした方がよい。

玉木委員長

⑤についても、「公立認定こども園への移行を推進」としてはどうか。私立も含まれるように見える。保育園との関わりはどうか。

事務局
(学校教育課長)

認定こども園については、公立幼稚園と公立保育園が同一地区にあるところについては、積極的に認定こども園に移行していこうという動きである。

それ以外の保育園については、単独で移行していくかどうかというのは次の話になるかと思う。その辺りについて動きがあるようには今のところ聞いていない。

東村市長

⑤に関しては、「公立認定こども園への移行を推進」とすると、私立の認定こども園を公立化するように受け取られる可能性もあるので、修正するのであれば、公立の保育園、幼稚園を認定こども園に移行するというような記載をしなければいけない。

玉木委員長

一つの学区内に公立の幼稚園と保育園があるようなところから、公立の認定こども園に移行していくというようなことで、内容をわかりやすくしてもらえれば。

事務局

(学校教育課長)

同一地区内に公立保育園と公立幼稚園があるところについては、公立認定こども園への移行を推進というような表現でよいかと思う。

内田教育長

6 ページ 施策の方向性(5)⑤の「特別支援学級と通常学級の児童生徒の交流や共同学習を推進」の「通常学級」について、法律的には「通常の学級」というのが正しいと思うが、「通常学級」でも意味は通じる。どちらを使うべきか、確認してほしい。

事務局

(学校教育課長)

文部科学省のウェブサイトにおいても、「小学校の通常学級と特別支援学級との交流及び共同学習について」という言い方をしているため、通常学級のままで問題ないようである。

東村市長

ほかの委員の皆さんはよろしいか。

本日まで3回にわたって、この大綱について議論していただいた。先ほどの意見のとおり、字句の訂正、あるいは必要などの確認をするということで、概ねこの案をベースとして、次の作業に進めていきたいと思うがよろしいか。

委員一同

— 異議なし —

東村市長

それではその他として事務局から何かあるか。

事務局

(教育総務課長)

本日いただいた意見について大綱(案)を修正する。修正案については、教育委員の皆さんには持ち回りでご承認いただきたいのでよろしくお願ひしたい。

東村市長

他にご意見等よろしいか。

委員一同

— なし —

東村市長

特にないようなので、閉会にあたり一言ご挨拶を申し上げたい。

総合教育会議は今年度教育に関する大綱の改定に向けて、6月、8月、10月と3回開催してきた。この間、教育委員長をはじめ委員各位には貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

本市の大綱の基本理念として「みんなが学び成長するふくいの教育」、「全国に誇れる教育環境のさらなる充実」を掲げた。今後はこの基本理念をしっかりと腹に据え、本市の特色であり強みでもある優れた教育環境を、トップレベルのまま維持するという事に注力していかなければならない。また、他の分野においてもレベルアップを図っていけるよう、教育施策を強力に進めていこうと考えているところである。

今後はこの大綱をもとに、市長と教育委員会が教育に関する基本的な認識を共有し、それぞれの役割と責任に応じ、より一層連携を図りながら教育を推進していかなければならない。また、教育本来の使命を果たすことができるよう、行政として、家庭や地域、学校、その他関係機関との連携による取組を強力に推進していきたいと考える。

最後になるが、委員各位には健康に十分ご留意いただき、教育行政発展のため引き続きご活躍いただくようご祈念申し上げ、閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

事務局

これで会議を終了する。